

令和5年度 第1回 和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会 議事要旨

【会議概要】

- ・日 時：令和5年7月21日(金)15:00～16:40
- ・場 所：和泉市コミュニティセンター1階大集会室
- ・欠席者：加納委員、兒嶋委員

【次第】

1. あいさつ
2. 委員紹介
3. 議案
 - 1) 和泉市地域公共交通網形成計画事業の進捗状況について
 - 2) 和泉市コミュニティバス運行見直しの概要について
 - 3) 槇尾中校区 AI オンデマンド運行計画について
 - 4) 横山地域バス（オレンジバス）の廃止について
 - 5) 新モビリティサービス推進事業について
 - 6) 和泉市地域公共交通計画策定について
4. その他

【議事概要】

1. あいさつ

森吉委員長：本日は開催にあたり公私多忙の中の出席に感謝申し上げます。また、日頃の公共交通行政をはじめ市政全般へのご協力に感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類相当から5類に引き下げられ、コロナ前に徐々に戻っている。外出機会が増えつつあり、人の移動の増加が予想され、公共交通に求められる役割がますます重要になる。本日は地域公共交通網形成計画のフォローアップ、槇尾中学校区のオンデマンド運行についてご審議いただき。今年度から鳳土木事務所、泉大津市からも参画いただいている。委員の皆様においては、本市の公共交通活性化に向けて、忌憚ない意見をいただきたい。

2. 委員紹介

(省略)

3. 議案

1) 和泉市地域公共交通網形成計画事業の進捗状況について

(事務局より資料1の説明)

伊勢副委員長：資料1-1の進捗状況一覧で事務局から説明があったものは、今年度の取組でよいのか。報告以外の事業については実施しないのか。

事務局：今年度実施する事業を抜粋して説明したものであり、報告以外の事業についても実施する事業はある。

伊勢副委員長：資料1-2の市民満足度に関する目標指標について2点意見がある。1点目が、地域バスの利便性の満足度で、対象を全市民ではなく、沿線エリアの市民を中心に集計、指標化してはどうか。2点目が、満足ではなく不満の状況を次期計画で指標にしてはどうか。満足度は低くなりがちであり、不満を抱いている人を減らしていく状況を目指すことも重要であろう。

伊勢副委員長：その他、意見や質問はあるか。なければ承認としたい。

(一同異議なし)

2) 和泉市コミュニティバス運行見直しの概要について

(事務局より資料2の説明)

伊勢副委員長：見直しにあたっての課題は遅延解消や運行ルートの効率化とのことだが、廃止とした停留所の基準や運行事業者とどのように調整したのか。過去の議論ではODデータを活用していたが、今回はいかがか。

事務局：廃止の停留所については1便あたりの乗降者数から検討しており、運行ルートについては南海バスと協議して調整している。

伊勢副委員長：乗降調査のデータを用いていると思うが、可能であればODの観点からも整理できないか検討してほしい。

岩佐委員：運行事業者の立場としても、遅延による利便性低下の解消に向けて、市と協議や現地確認等をしながら見直しをした。阪和線沿線ルートは、山荘停留所で山荘・和泉中央ルートが接続しているが、小田・和気ルートとも接続しており、遅延が複数ルートに波及してしまう。沿線では高齢化が進んでおり、乗降時間も取られること、狭隘道路での対向車とのすれ違いや違法駐車車両の追越しに時間を要することから、見直しが遅延解消につながると考えている。

澤村委員：狭隘区間はあるが、交通混雑はないと思われる。また、違法駐車が荷捌き車両ではないなら、小学生の登下校時にも問題になっている箇所かもしれない。とにかく今回の見直し理由としては、利用者数が少ないこと、また、狭隘区間における違法駐車等による遅延解消ということでしょうか。

事務局：コロナ禍後に交通量がこれまで以上に増加しており、時間帯によっては、バスの通常運行に影響がある区間もある。道路交通状況を踏まえて、近隣停留場への集約も行いながら見直しをしており、地元にもこのように説明していきたい。

伊勢副委員長：今後、パブリックコメントを行うことになっており、次回委員会でも議論いただきたい。

3) 槇尾中校区 AI オンデマンド運行計画について

(事務局より資料3の説明)

中村委員：実証実験はいつ頃から開始するのか。また、運行事業者が決まっておればご教授願いたい。運行事業者によっては申請が必要なため、確定した段階で運輸局に連絡がほしい。また、乗り合い人数の評価指標について、平日2名以上/便、休日4名以上/便と異なるが、どのように設定したのか。

事務局：実証運行については、令和6年2～3月まで行い、4月から本格運行に移行予定である。事業者については、システムベンダーとしてアイシン株式会社が優先事業者となっており、運行事業者にはアイシン株式会社がタイアップする大阪第一交通株式会社を予定している。乗り合い人数の評価指標については、槇尾山への移動も踏まえて設定している。

伊勢副委員長：実証運行中は無料、本格運行後は有償への移行でよいか。

事務局：その通りである。

伊勢副委員長：実証運行の状況によっては、本格運行に移行しないこともありえるのか。

事務局：オレンジバスの代替手段でもあり、実証運行後は本格運行となる。

伊勢副委員長：本格運行後もこれらの目標指標でモニタリングすることになるだろうが、一便あたりの平均利用人数について、ルート上で適宜乗降があるなかで、どのように算出するのか。

事務局：複数人が同時に乗車した場合を乗り合いとして整理する。

中田委員：前回の資料よりも、エリア分けや運賃などが変更されている。現在の運行事業者の立場からは、AI オンデマンド運行は既存の路線バスや路線維持バスよりも利便性が高いものとなる可能性があり、実際に運行してみないと分からないが、既存のものと競合していくことも考えられる。運賃については路線バスを意識した設定となっているが、利用促進策として回数券などを発行される場合は、極端に割引率が高い設定などは避けて検討いただきたい。

伊勢副委員長：AI オンデマンド運行の検討にあたっては、既存の公共交通との共存を念頭に置かれているが、利便性の高さから競合を懸念する意見がある。資料1-1にある地域間幹線系統の施策と併せ、路線バスとの役割分担についても委員会で注視していくべきであろう。

評価指標の確認の際は、路線バス利用の増減も確認もしてほしく、状況によっては議論が必要となるだろう。また、ラストワンマイルの移動手段が増えたことで、路線バス利用の増加に波及することも考えられるため、アンケートについては、AI オンデマンド運行にとどまらず、地域の公共交通全体の状況を確認できるよ

うに検討してほしい。

また、他の公共交通機関を組み合わせる利用した際に割引などは検討しているか。様々な公共交通機関の利用拡大につながるように考えてほしい。

事務局：南海バスと連携し、良い方向性で進められるよう検討したい。

檜垣委員：青少年の家の先にこもれびの森があり、大型遊具の設置作業をしており、停留所の設置を今後検討してほしい。

事務局：停留所の候補地として、立会い等し、検討していきたい。

伊勢副委員長：青少年の家から槇尾山に行く移動はあるのか。

事務局：その移動は想定しておらず、徒歩による移動を想定している。

伊勢副委員長：評価指標のアプリダウンロード数について、サービス開始に伴い新規登録者が年々減少すると想定されるため、一時的な指標とするなど、調整してはどうか。

事務局：槇尾山への市外の利用者を想定して設定したが、地域の方の登録状況も踏まえた想定にするか、検討したい。

中村委員：地元の運行事業者との共存に向け、大阪第一交通株式会社以外のタクシー事業者とは調整できているのか。

小川委員：和泉中央駅などの範囲ではなく、当エリア内での運行のため、影響が少ないと考えている。なお、弊社の名前が既に登場しているが、まだ正式なものではない。路線バスに影響がある取組であるが、路線バスの維持に向けて利用促進を図っていききたい。

事務局：他のタクシー事業者とまだ調整できていない。

中村委員：事前にタクシー事業者間の調整を検討してほしい。

岩佐委員：乗降場所でバスとタクシーのトラブル等が発生しないよう、ルール作りや安全確保を行い、安全に運行できるように調整してほしい。路線バスとAI オンデマンド運行の競合については、運行後に実際の影響を確認し、連携もあればその逆もあるので、慎重に議論していきたい。

伊勢副委員長：乗降場所が同じ箇所については、安全確保に向けた調整を進めてほしい。また、競合状況の確認については、実証運行中にも必要に応じて分科会等で議論してもよいかもしれない。

伊勢副委員長：事務局には今回の意見を踏まえて修正をしてもらい、その他、意見がなければ承認としたい。

(一同異議なし)

4) 横山地域バス（オレンジバス）の廃止について

(事務局より資料4の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について意見や質問はあるか。

意見なし (一同異議なし)

5) 新モビリティサービス推進事業について

(事務局より資料5の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について意見や質問はあるか。

意見なし（一同異議なし）

6) 和泉市地域公共交通計画策定について

(事務局より資料6の説明)

伊勢副委員長：アンケート案について各委員のご意見を伺いたいが、いつ頃まで受け付け可能か。

事務局：今月末を目安に、事務局までご意見いただきたい。

伊勢副委員長：阪和線西エリアのへ新たな公共交通導入について、槇尾中学校区での導入事例のように慎重に議論を進めてほしい。アンケートでは、利用頻度や運賃などの具体的な内容を聞かなくてもよいのか。

事務局：運賃設定などについては、ワークショップでの議論を予定しており、アンケートでは公共交通の必要性などを中心に確認したい。

澤村委員：阪和線西エリアは和泉市の他に泉大津市も関わってくるが、市を跨いで一体としてサービスを検討するのか。

事務局：和泉市内の飛び地も含めて検討したい。また、泉大津市との意見交換なども踏まえ、サービスのあり方を検討していきたい。

伊勢副委員長：その他、意見や質問はあるか。なければ、資料に沿って今後議論を進めるということではどうか。

(一同異議なし)

5. 閉会

事務局：本日は長時間にわたり熱心に議論いただき、感謝申し上げます。これにて本日の活性化プロジェクト委員会を閉会する。

以上

【会議の様子】

